

# ガンコ親父の

松次郎は今月も長男土郎の家を訪ねた。孫の「博喜」に会うのが楽しみだからである。その日の博喜は、友達が札幌雪まつりに行ったことを、「つらやましそ」に話した。土郎は「今日だって、札幌はマイナス10度なんだぞ。博喜な、お前10度を下回っただけで寒い、寒いって死にそんな顔をしていたじゃないか。札幌なんか、無理、無理」。それならと、北海道には連れて行ってもらえそにない博喜のために松次郎は作り話を始めた。

北海道の雪女も人間との交流には厳罰が課せられるので、薄情け見えだが、そうとばかりは言えなかった。とある吹雪の夜、山道に一人の若い男が倒れていた。雪女は放っておこうと思ったが、顔を覗くと「イケメン」だったのでつい立ち止まってしまった。奄美黒糖焼酎「こんなところで寝てたら遭難しちゃうよ、えっ、起きれないの?」。男は「そうなんです」と息も絶え絶えに、ダジャレを発して即、気絶。

雪女は山奥の自宅に連れて帰り、男を介抱した。イケメンな上にジョークも上手だったので、掟を破ってまでも助けてしまったのだ。奇跡的に男は息を吹き返した。雪女は男に「私のことを、絶対口に出したらダメ。約束よ。もし、約束を破ったらあなたは死んでしまうこと」と言い放ち、すくっと消えていった。

その後、北海道で奇妙な体験をした男は「島」に帰り着いた。そして次の冬、色白な女と知り合って、男は結婚した。女は冷凍倉庫の会社で働いていた。男の妻となった女は、大きな冷凍室が付いた冷蔵庫を異様に欲しがり、猫舌だから熱い料理が苦手だと言った。冬の間は問題なかったが春が来ると同時に体調を壊した。何か、奇妙だ。話が上手く繋がりすぎると男は思った。妻の実家は北海道だった。療養のために、翌冬が来るまで里帰りを申し出た。暖かくなるのを恐れるものなどそう多くはない。男は「ひよっとして、君は雪女じゃ?」と思わず声に出してしまった。

振り向いた妻の目は真っ赤に充血して大きく見開かれていた。「あなた、ついに約束を破ってしまったわね」とそこまで話すと、松次郎は「グエ〜」と博喜に向かって叫びながら首を両手でかきむしり始めた。

突如として目の前で繰り広げられる松次郎の迫真の演技に、博喜は腰が引けてしまった。「ごっだ、博喜。最初から島にいたらそんな変な約束守らなくてもいい」と土郎は笑った。

「ひよっとして、話の中の男の人はおじいちゃんのことなんでしょ?イケメンだから」と博喜は言った。「お前はなんて鋭い子なんだ。俺は雪女にもモテてしまうのだ」と松次郎は相好を崩した。帰り道、松次郎は孫との会話を思い出しては、ほっこりと暖かくなるのを感じた。さあ、家に帰って『しまっちゅ伝蔵』だ。雪女には悪いけどやっぱり今夜は「お湯割」かな。



しまっちゅ伝蔵  
でんぞう

常圧蒸留

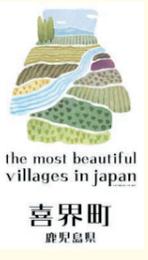
昔ながらの手造り  
こだわり焼酎  
喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



おかげさまで「創業101周年」

好評発売中  
25度

喜界島酒造株式会社  
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12  
TEL 0997(65)0251



# 雪女に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。